National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」

体験の風をおこそう

2025

令和７年度子どもゆめ基金助成事業

「病院や児童福祉施設の子どもが主体的に創造しワクワクするQOL向上あそび交流2025」

報告書

病気で長期入院している子どもや、障がいがあり放課後等デイサービスなどの児童福祉施設に通う子どもが、地域から発掘したあそびの指導者と創造性豊かなアートを通して夢中にあそび、仲間と一緒にワクワクと楽しい時間を過ごすあそびと交流の体験で、笑顔になり希望や生きる力につながる情緒的なＱＯＬ向上をはかる事を目的としています。

●子どもの自発性とチャレンジにつながるコミュニケーションあそびワークショップ
●子どもの心と体を開放する音楽・表現あそびワークショップ
●子どもの想像力と創造力を育てる工作あそびワークショップ

主催：特定非営利活動法人子ども劇場千葉県センター

〒260－0031　千葉市中央区新千葉２－17－６サンコート新千葉102号
TEL：043－301－7262　FAX：043－301－7263
Email:kidchiba@lily.ocn.ne.jp　URL https://chiba.gekijou.org/

後援:千葉県　千葉市　千葉県教育委員会　千葉県医師会　千葉県小児科医会

ワーク実施一覧

	施設名	実施日時 実施場所	プログラム 指導者	指導者	協力者	子ども	大人＋ボラ	参加総数	参加人数内訳
1	下志津病院	7 月 23 日(水) 12:30～14:30 療育訓練室	「工作いろいろいっしょにつくろう!」 加川きみ子　北野美子 梶原留理子　椎名好子	4	2	8	3	11	子ども 8 人(小学生 7 中学生 1) 大人 3 人(保育士 2 看護師 1) 合計 1 人
2	千葉県こども病院	8 月 14 日(木) 10:00～12:00 １階ロビー図書コーナー	「つくってあそぼう!夏休み工作!」 大崎あけみ 大山菜穂子 河原裕美　大山紗輝	4	2	34	19	53	こども 34 人(幼児 17 小学生 17) 大人 19 人(保護者 15 医療関係者 4) 合計 53 人
3	放課後デイ本城ルーム	8 月 26 日(火) 13:30～15:30 活動室	「楽しいお話の世界とキラキラの世界を作ってあそぼ」 飯野真子　廣瀬節子 松本祐子　古賀恵美子	4	2	11	4	15	こども 11 人 (小学５中学 3 高校 3) 大人 4 人(施設職員 3 ボランティア 1) 合計 15 人
4	千葉リハビリテーションセンター	8 月 27 日(水) 10:30～14:10 大ホール	「たのしクインテットとワクワクサマーコンサート」 石井真理子 橋本ゆきえ 大塚るい　大山菜穂子	4	2	86	64	150	こども 86 人(①46②40) 大人 64 人(保護者 12 施設 47 ボランティア 5) 合計 150 人
5	放課後デイグリーンヒルキッズ	8 月 28 日(木) 13:00～15:00 ゆりのき台教室	「つくってみよう・やってみよう! オンリーワンの力士つくりとトントン相撲」 志水則友、棚田純子 鈴木佳子　綿貫のばら	4	2	16	8	24	こども 16 人(小学 16) 大人 8 人(施設職員 8) 合計 24 人
6	放課後デイハクナマタタ	11 月 12 日(水) 15:00～17:00 活動ルーム	「革で少し早めのクリスマスオーナメントをつくろう!」 井澤智子　北川妙子 斯波優江　加藤香都代	4	3	13	6	19	子ども 13 人(中学 5　高校 8) 大人 6 人(施設職員 6) 合計19人
7	千葉東病院	11 月 21 日(金) 14:00～16:10 31・32 病棟	「秋のわくわく音楽会」 にじいろストリングス 大山菜穂子　鈴木祥子 秋月雅也　飯高緑	4	1	26	15	41	子ども 26 人(幼児 2 小学生以上 24) 大人 15 人(教師 1 病院スタッフ 12 ボランティア 2) 合計 41 人
8	千葉大学医学部附属病院	11 月 26 日(水) 12:30～14:30 クリーンルーム 南 3F プレイルーム	「クラフトタイムで“ほっこり”しよう♪」 大崎あけみ 大山菜穂子 河原裕美 和田直子	4	2	13	8	21	子ども 13(幼児 6 小学生 3 中学生 3 高校生 1) 大人 8(保護者6病院 2) 合計 21 人
9	国府台病院	1 月 19 日(月) 10:10～12:10 運動場&学習室	「わくわく工作!オンリーワンをつくろう!」 濱美幸　　波多陽子 井澤智子　勝部久美子	4	4	17	12	29	子ども 17 人(小学生 4 中学生 13) 大人 12 人(施設関係者 7 看護師 1 ボランティア 4)　合計 29 人
10	放課後デイわくわく bloom	1 月 31 日(土) 13:00～15:00 活動ルーム	「いろいろ素材でつくろう!あそぼう!」 鈴木美和子　和田直子 篠藤晶子　河原裕美	4	4	18	5	23	子ども 18 人(小学生 12 中学生 5 人　高校生 1) 大人 5 人(施設職員 5) 合計 23 人
				40	24	242	144	386	

ポスター

工作いろいろ いっしょにつくろう！
日 時：2025年7月23日(水) 12：30~14：30
ハンドスピナー
フォトフレーム
ビーズブレスレット

つくってあそぼう！
夏休み工作！
2025年8月14日（木）10:00~12:00
千葉県こども病院・1階ロビー図書コーナー
参加費無料
対象：幼児・小学生 20人

楽しいお話の世界と
キラキラの世界を作って
あそぼ
2025年
8月26日(火)
13:30-15:30
参加費 無料
募集人数 15人
対象 小・中・高校生
主催：NPO法人 子ども劇場千葉県センター

たのしクインテット
と
わくわく
サマーコンサート
千葉リハビリテーションセンター
大ホール
8/27(水)
10:30
14:10

作ってみよう・やってみよう！
オンリーワンの力士作りと
トントン相撲
2025
8/28(木)
参加無料
13:00-15:00
会場 放課後等デイサービスグリーンヒルキッズゆりのき台教室
対象 小学生1年~6年生 20名
募集人数 20名
申し込み方法 メールまたはお電話で申し込み

革で早めのクリスマスオーナメントを作ろう!
会場：放課後等デイサービス・ハクナマタタ 活動ルーム
日程：2025年11月12日（水）15時~17時
対象：中学生 高校生
募集人数1名
参加費無料

秋の わくわく
音楽会
2025年
11月21日(金)
14:00-16:00
千葉医療センター千葉東病院 療育指導室

クラフトタイムで
“ほっこり”
しよう♪
【日 時】2025年11月26日(水) 10:00~12:00
【会 場】千葉大医学部附属病院 南3F（プレイルーム）

わくわく工作
オンリーワンを作ろう！
対象年齢（小学生・中学生） 参加費無料
2026年1月19日（月）
10：10~12：10
対象：小学生・中学生募集人数 33人
参加費無料

いろいろ素材で
つくろう！
あそぼう！
【日 時】2026年1月31日(土) 13:00~15:00
【会 場】わくわくbloom(放課後等デイサービス)

1. 国立病院機構　下志津病院「工作いろいろいっしょにつくろう！」

日時：2025 年 7 月 23 日（水）12:30～14:30
場所：療育訓練室
参加者 11 人
（子ども 8 人　病院関係者 3 人）
指導者：　加川きみこ　北野美子　梶原留理子　椎名好子

ワークショップの内容
ハンドスピナー
ビーズブレスレット
フォトフレーム

全員一生懸命に作り楽しそう。自分で時間の組み立てをし、順番を決め３作品を仕上げた。ハンドスピナーは、折り紙で丸をくるむ時、はさみで切り込みを入れて貼るのが難しかったようだが、くるくるよく回して遊んだ。ビーズブレスレッドは人気で、２個作った子もいた。「青が好き」「カラフルなのがいい」と、こだわりを持ってビーズを並べた。小学生男子 2 人も仲良くなり「僕はこれにした。別々になったね。」「いいね」互いを尊重した会話がほほえましい。フォトフレームは、貼るシールの絵１つ１つに反応して「象だ。やったー！」など嬉しそう。自分の名前も入れ込みユニークな絵を描くなど大人が思いつかないことを子どもは発想する。

子どもの声
・たのしかった。
・友達ができてたのしかった！！
・ハサミとどうぐをつかうときどこにやればいいのかむずかしかったけど、プロの人がいたからむずかしくなかった。

施設関係者の声
・人見知りの子でも意欲的な様子が見られた。自分で作ったアクセサリーなど、大切そうに装着し、自分で作り上げたことによる達成感や満足感につながっているのではないかと感じた。患児達も非常に楽しそうにしている様子もあり、今後も是非お願いしたい。
・子どもたちが作りたいものを自ら選び、とても集中して取り組む姿が見られた。各々の感性で作品が出来上がり、参加児も大変満足した様子だった。自ら考えたり、細かい手作業に苦戦したりしながらも、出来上がった時の達成感があふれる表情で、楽しい経験が出来たことを感じた。楽しい企画と経験の場を与えていただき、大変ありがとうございました。

2. 千葉県こども病院「つくってあそぼう！夏休み工作！」

日時：2025 年 8 月 14 日（木）10:00～12:00
場所：１F ロビー図書コーナー
参加者 53 人
（子ども 34 人　保護者 15 人病院関係者 4 人）
指導者：　大崎あけみ　大山菜穂子　河原裕美　大山紗輝

ワークショップの内容
・魚を作って魚釣り　・ゆらゆらへびさん　・フェルトのバッグチャーム・どうぶつ折り紙
・紙芝居「ねずみ長者」

拍子木を鳴らしてロビーに声かけると三々五々集まり、院長先生の「今日は楽しんでください！」のあいさつで始まり。プールのクリップつきの魚、カニ、たこ、カメなどに幼児はすぐに興味を示してつり始め、父母と一緒に「うまい！つれたつれた！よかったね～」と笑顔になり雰囲気が和んだ。ゆらゆらへびさんは、色画用紙の渦巻きにクレヨンで色塗り、マスキングテープ貼りなどは気の向くまま。渦巻きに切って、糸と棒をつけて振るとゆらゆら生きているよう。小学生は「フェルトのバッグチャーム」でじっくり取り組み満足して達成感。「ねずみちょうじゃ」朗々とした紙芝居に子どもたちは見入り、場外の待合室の大人まで、興味深そうに聴いていた。工作中の子どもは、手を休めることなく聴いていた。

子どもの声
・いつもの通院が今日は楽しく過ごせてよかった！
・はやくかざりたいです。
・はじめてかみしばいをみれて楽しかった！

保護者の声
・声をかけて頂き、子どももとても楽しそうに活動していた。通院でいつもあきてしまうが、今日はとても良い思い出ができた。
・検査の結果の後でおちこんでいたが、たのしい気持ちになれた。

施設関係者の声
・自分より小さな子に対して丁寧に教えてあげていた。そのことを声かけすると、「小さい子にはやさしくしくするんだよ」と教えてくれました。

3. (社福)大成会放課後等デイサービス本城ルーム
「楽しいお話の世界とキラキラの世界を作ってあそぼ」

日時：2025 年 8 月 26 日（火）13:30～15:30
場所：活動室
参加者 15 人
（子ども 11 人　施設関係 3 人 ボランティア 1 人）
指導者：　飯野真子　廣瀬節子　松本祐子　古賀恵美子

ワークショップの内容
・エプロンシアター「にんじん、だいこん、ごぼう」
・大型絵本「ありとすいか」クイズ「野菜のおなか」
工作　・うちわを作って牛乳パックボールで遊ぼう
・さかさ？万華鏡　キラキラ万華鏡

エプロンシアター、大型絵本も静かにジーッと見ていた子どもたちが、一転してクイズ「野菜のおなか」になると、ページをめくると「レンコン！」「なにそれー？」「わかんなーい」など、いろいろな声が飛び交う。うちわの工作、B4 の白い紙に好きな絵を描く。次々とポケモンを描いていた男の子、だんだんと丁度良い大きさに描けた。できたうちわでつるしたフラフープめがけ牛乳パックボールを何度も打ち込み、とてもいい笑顔。「キラキラ万華鏡」はビーズが 2，3 個しか入らないので選ぶのに迷う迷う。「さかさ？万華鏡」最初仕組みが分からず「え！どうやるの？」「なんこれ？」と尋ねる子どもたち。分かると晴れ晴れした顔で制作に取り掛かった。どの子も自分で決めて自分でやる。やりながら会話も弾んでいた。

子どもの声
・楽しかったまたやりたい
　まんげきょうまたやりたい
・ワークショップをやってつかれました
・ありがとうございました
・またやりたい　ぜんぶやりたい。
・たのしかった　またきてください♡　またうちわやりたい♡

施設関係者の声
・達成感満足感があった。初めて作る工作や魅力的な材料で子どもたちは楽しめたと思う
・子どもたちが固まることなく自然に取り組めました。
・無理強いさせないけど一人一人を気にかけ声を掛ける姿が良かった。

4. 千葉県千葉リハビリテーションセンター
「たのしクインテットとわくわくサマーコンサート」

日時：2025 年 8 月 27 日（水）10:30　～14:10
場所：大ホール
参加者 150 人
（子ども 86 人　保護者 12 人　施設関係者 47 人　ボランティア 5 人）
指導者：　石井真理子　橋本友希恵　大塚るい　大山菜穂子

ワークショップの内容
・アイネクライネナハトムジーク、情熱大陸、ジブリのメドレー、ディズニーメドレー
・みんなで演奏しよう（マツケンサンバ）
・みんなで歌おう（サザエさん、おどるポンポコリン）・みんなで踊ろう

「ずっと楽しみにしてましたね！」の挨拶で会場の雰囲気も大いに盛り上がった。前列の幼児たちは好奇心いっぱいで目がキラキラ。どの曲も手を叩き、楽器を鳴らしてリズムをとった。知っている曲に合わせて体を動かし、足をバタバタと、嬉しい表情。習ったリズムを太鼓でノリノリで打った。『はい、よろこんで』室内を暗くし電飾が付くと「あ～っ！」と驚いて天井に映る光を目で追っていた。ダンスもあり、効果的な演出だった。さびのダンスに今まで無表情に見えた男子の表情が急に変わり、手足をバタバタさせ始め、リズムを体で表現していた。『ありがとうの花』で、ペットボトルマラカスをマイクのように持って歌っていた。「楽しかった～」「良い思い出になりました」「また来てね」たくさんの拍手をおくって名残惜しそうだった。

子どもの声
・いいおとだった。くらくなったけどこわくなかった　やったーとおもった
・がっきたのしいよ　うれしいよ　おどりたのしかったよ
・歌がすき　がっきがすき　おともだちといっしょがよかった
・今はやっている曲がきけてよかった
・がっきのフルートがきれいなおとだった

施設関係者の声
・本物の楽器を見ることや、生の演奏を聴く機会が少ないので、とても貴重な機会をいただき、ありがとうございました。また、外部の人との関わり、演者とのやりとり（質問や声掛け）など職員ではない人とのやりとりを経験することもできて利用児者にとっては人とのつながりを感じることもできたのではないかと感じた。

5. 放課後等デイサービス　グリーンヒルキッズ
「つくってみよう・やってみよう!オンリーワンの力士つくりとトントン相撲」

日時：2025 年 8 月 28 日（木）13:00～15:00
場所：ゆりのき台教室
参加者 24 人
（子ども 16 人　施設関係者 8 人）
指導者：志水則友　棚田純子　鈴木佳子　綿貫のばら

ワークショップの内容
トントン相撲のためのオリジナル力士の作成とトーナメント方式で対戦

指導者からお試しの力士の絵をみせてもらうと、早々に色を塗り始め、マーカーの赤や黄色、青など色とりどりに塗っていた。「力士」はお相撲さんだけではなく、怪獣、ちょうちょなどから好きなものを選び、色をぬると器用に、丁寧にはさみで切り取る。隣の子と話しながら作っていた。さあ、段ボールで作った土俵で勝負!土俵がめずらしいのか、トントンとやってみる。「力士」同士は向き合っておき、トントンと 2，3 回たたくとすぐ勝負がついた。最初から甲冑のイラストを左右対象に書いていた男の子がいて、時々指をさすりながら緻密な絵をずーっと描いていた。書き始まるときには完成時のイメージが付いていると話してくれた。

子どもの声
・たたくだけで すもうがうごくのがおもしろかった

施設関係者の声
・大好きな色塗りから始めたのでトントン相撲と聞いてぴんとこない子ども、得意なところから入りって楽しむことができた。
・力士の取り組みの角度や全体の大きさやバランスを考えながら作成に集中し遊びの幅を広げることもできた。
・興味が持続しない子どもにも無理させずによりそってくれた。
・工夫がされているオリジナルの土俵にも興味をもち挑戦したい気持ちになっていった。
・自分で考え工夫して作る、勝負の際も緊張するけど行う、負けることもあるなどの経験につながった。

6. 放課後等デイサービス・ハクナマタタ
「革で早めのクリスマスオーナメントを作ろう!」

日時：2025 年 11 月 12 日（水）15:00　～17:00
場所：活動ルーム
参加者 19 人
（子ども 13 人 施設関係者 6 人）
指導者：　井澤智子　斯波優江　北川妙子　加藤香都代

ワークショップの内容
パネルシアター「サンタさんがやってくる」
革工作革でクリスマスオーナメントを作ろう

はじめにパネルシアターでサンタさんの歌「森のクリスマス 」を「きょうはすてきな ～」と、一緒に歌いながら、とても盛り上がった。一気にクリスマスのイメージになった。キラキラのシールを選んだり、モールをつけるだけで素敵なものができた。得意げな顔になった。どうする? どっち?と聞くと、「こっち」とちゃんと答えて、自分の思ったものを作ることができていた。満足な顔になった。「ここに穴をあけてほしい」と、言ってきたが、やる? と聞くと、「やる」と言って、力を込めて自分でカチッと穴をあけることができて、満足そうだった。

子どもの声
・かわをつかってたのしかった。
・ありがとう
・じゃじゃまるをいっしょに作った。うれしかった。
・またやりたいです。
・ありがとうございます。またきてくらさい。

施設関係者の声
・完成したクリスマスオーナメントをお友達やスタッフに見せて、とても嬉しそうで満足気だった。
・挑戦する力ーやわらかくても、かたくても切りにくい素材だが、自分の力で型を整えようとする姿があった。
・普段は、やらなければならないことが多いので、自由に自分の思ったように仕上げることは自己肯定感の向上になる。みんな自分のやりたいことをちゃんと持っている。それをスタッフとやり取りしながら形にすることで達成感がある。

7. 国立病院機構千葉医療センター　千葉東病院「秋のわくわく音楽会」

日時：2025 年 11 月 21 日（金）14:00～16:10
場所：31 病棟と 32 病棟 デイルーム
参加者 41 人
（子ども 26 人　病院関係者 13 人 ボランティア 2 人）
指導者：大山菜穂子　鈴木祥子　秋月雅也　飯高緑

ワークショップの内容
楽器の説明、バイオリンとビオラとチェロの演奏①アイネクライネナハトムジーク ②シンコペーティッドクロック ③踊る子猫 ④ハンガリー舞曲第 5 番　⑤剣の舞 ⑥エレクトリカルパレード ⑦アナと雪の女王⑧虹の彼方に　　参加者全員バイオリン体験

早くからデイルームに集合し、車いすやベッドで待っていた子どもたち。弦楽器の演奏が始まるとリズムに乗って上半身を大きく動かしたり、手をたたいたり、マラカスや鈴を鳴らして楽しんでいた。子猫や犬の鳴き声のパフォーマンスでは「フフッ」と声を出して笑った。職員が子どもにやさしく話しかけながら鈴を鳴らしたり、リズムに合わせて子どもの肩をトントンとふれていた。演奏のときは黙って聞いて終わると声を出している子どももいた。聴覚や視力が弱い子どもも笑っていて、リズムや振動でその場を楽しんでいた。バイオリンを肩に乗せて弓を持って音を出すと振動が体に伝わる体験を全員がやってみた。ゆっくり弓を引くと体に感じる音に気持ちよさそうにしていたり、早く引くと最初びっくりしたがにこにこと喜んで、もつとやってという表情の子どももいた。バイオリン体験のとき満面笑顔になった男子を見て、まわりの職員も大笑い。笑顔が連鎖した。

施設関係者の声
・バイオリンの音を耳元で聞いた時の驚きやすぐに笑顔にかわり、表情がキラキラしていた。子どもたちが自ら楽器をさわり楽しむことができて素晴らしい体験だった（もちろん、普段 CD をきくことはあるが、本物（実物）にふれるのははじめてだった）。
・音楽に合わせてマラカスや鈴等、楽器を鳴らして楽しむ様子が見られた。
・演奏で使用した楽器の体験により演奏者の方と同じ楽器を鳴らすことができたことで自己肯定感が上がったように感じた。

8. 千葉大学医学部附属病院「クラフトタイムで“ほっこり”しよう♪」

日時：2025 年 11 月 26 日（水）12:30～14:30
場所：　南 3F プレイルーム
参加者 21 人
（子ども 13 人　保護者 6 人　施設関係者 2 人）
指導者：　大崎あけみ　大山菜穂子　河原裕美　和田直子

ワークショップの内容
紙芝居…幼児向け、小学生向け、高学年向け
工作…アルファベットビーズのキーフォルダー、フェルトのバッグチャーム、くるくるレインボー、クラフトバンドの小物入れ

事前にお知らせしたポスターを見て、どこに参加するかを決めていたようだった。保育士からの丁寧な誘いがあり、すぐに制作にとりかかった。引っ張ったり、折り曲げたりのコツを教えてもらいクラフトバンドを作った高校生や中学生男子 3 人グループから“満足した”の声が寄せられた。制作の後に手術室に向かうときに「行ってきまーす」と、治療に前向きな気持ちになっていたようだ。ほとんどの参加者がお目当ての作品制作の他に 2～3 種類つくってさらに満足していた。入院生活では見せない夢中になっていた様子や満足感の様子を見て付き添いの家族も制作に参加し、楽しんでいた。紙芝居の病室訪問は年齢に合わせた作品とはじまりと終わりの拍子木の音が心地良さになったようだ。

子どもの声
・普段やることができない貴重な体験をすることができ、とても楽しかった。集中して自分がつくりたいのをつくることができた。
・いつか家でもやりたいなと思った。
・紙芝居がたのしかった。またさんかしたい。
・毎日やりたい。

施設関係者の声
・あっという間に場になじみ集中するすがたが印象的だった。看児同士や保護者の交流の場にもなり、入院生活の中で楽しい思い出ができたと思う。
・クリーンルームの女子がポスターを見て期待して待っていて、実際に参加した表情は〝夢中〟〝楽しい〟があふれていた。
・閉鎖的な部屋を出て仲間と過ごす時間がもてたことは QOL 向上につながったと感じた。病室訪問もありがとうございました。

9. 国立国際医療研究センター国府台病院
「わくわく工作!オンリーワンを作ろう!」

日時：2026 年 1 月 19 日（火）10:10～12:10
場所：学習室・室内運動場
参加者 29 人
（子ども 17 人　施設関係者人 8 人　ボランティア 4 人）
指導者：　濱美幸　波多陽子　井澤智子　勝部久美子

ワークショップの内容
キラキラビー玉の万華鏡
革細工
ビーズストラップ

万華鏡の材料のビー玉を選ぶ時に両眼でみるとどうなんだろう。こっちの色は？角度は？など色々試している場面があり、さらに覗いてみた時の驚きの声など始まりの雰囲気がよかった。革工作で編んでみたい、きれいな柄の革を裏表貼り合わせたい、など、それぞれのやりたいことがパッと決まってすぐに取り組んでいた。逆に「自分で選べない」と革を見つめている子、それでも OK で、革を触っていた。ヘビが好きな子が、ありったけのヘビ柄を寄せ集めていて、「赤と黄色のヘビ革出てきたよー」と遠くから伝えたらすぐに確認に来て、全部持って行って作品を作る場面があった。ストラップで「これにしようかな」「〇〇にプレゼントしたい」などいくつも作った子がいた。

子どもの声
・革の手触りが特によかった、万華鏡もきれいでよかった。
・たいせつな人へのプレゼントができた。
・かわいいのがつくれてうれしかった。楽しかった。
・ビーズなどを使ったストラップが 1 番気に入った。おもしろかった。

施設関係者の声
子どもの思いを尊重して、」待つことの実践、細やかな配慮に感謝。生活を豊かにするきっかけになるのでは。子どもたちだけでは考えにくかったアイデアが出てきた。退院後のそれぞれの生活につながっていくことに期待。

10. 放課後等デイサービスわくわく bloom
「いろいろ素材で作ろう!あそぼう!」

日時：2026 年 1 月 31 日（土）13:00　～15:00
場所：活動ルーム
参加者 23 人
（子ども 18 人　施設関係者 5 人）
指導者:鈴木美和子　和田直子　篠藤晶子　河原裕美

ワークショップの内容
クラフトバンドの小物いれ
絵をかいて缶バッチにしよう
フェルトでキーホルダー
くるくるレインボーダブル
革で何を作ろうかな

5 種類のワークショップを紹介し「自分のやりたい物から始めてみてね」と促すと、4 名くらいずつ、それぞれの材料が置いてある机に分散し、指導者から説明を受け、黙々と作り始めた。缶バッジは推しキャラクターなどを探したり、絵を描いたりして、2～3 個作成する子もいた。くるくるレインボーと小物入れは根気が必要だが、一生懸命に完成させ、「やった～！」と喜ぶ姿が見られた。革の工作とフェルトのキーホルダーは、飾りつけのアイデアが独創的で、本人が満足のいくものを作っていた。

子どもの声
・押し活してる気持ちになった。またやりたい。
・自分の好きなやつを作れてとても楽しかったし、うれしかった！
・キーホルダーつくるの楽しかった。
・かんばっちをつくった。たのしかった。

施設関係者の声
・子どもたちが自分で考え選び、行動する姿が多く見られた。自分で作り上げた達成感や成功体験が自己肯定感の向上や心の安定につながっていると感じた。
・子どもが「今日はおまつりみたいに特別な日だね」とうれしそうに参加していた。目をキラキラさせて自分の作った缶バッジやフェルトのキーホルダー、革のカバンやリボン等を見せに来て「こんなの作ったよ」と自信たっぷりだった。

今年度の取り組み経過概要

① 入院病棟では、感染症の流行等、外からの入室制限が未だに厳しいところもあり、2 病院では実施できなかったが、QOL の向上や自己肯定感の向上を必要とする障害児施設に拡げて実施した。外部からの人数の入室制限のある病院もあった。久しぶりに実施できた病院ではとても喜んでいた。また、障がいを持った子どもたちの放課後等デイサービスでも定着し地域からの訪問の希望が高かった。おかげで 10 か所での開催ができた。再訪問で、信頼関係も強くなった。芸術文化による交流あそびで笑顔いっぱいになり QOL 向上に効果的であると評価され、次年度継続実施を希望した。

② 当団体では感染防止対策のガイドラインを作成し、今年度も事業実施 7 日前から健康チェックシートで、指導者・スタッフの健康チェックをして臨んだ。また、各施設のガイドラインに基づき、感染防止対策の徹底をし、安心と安全を可能な限り保証することを心がけた。

事業の成果と課題

① 病院や施設での生活の課題とニーズを把握し地域の遊びの専門家から指導者を選び、文化的な遊びや体験ワークショップを提供した。6 病院 4 放課後等デイサービスで計 10 回実施し、386 人（子ども 242 人、大人 144 人）が参加した。大人の中にはボランティア 12 人が含まれていて指導者の補助として必要であった。

［18 年間の実施実績：12 病院 36 施設 延べ 304 回 12,071 人参加］

② 子どもたちは、やる前の期待も高く楽しみにしている子が多く、アンケートから、たのしかった、おもしろかった、やれてよかった、うれしかった、きぶんがよかったと、喜びが伝わってきた。子どもたちがわくわくと選べる豊富な色や材料、題材で、自分で思ったように創造意欲を膨らませた。また、友達と協力したり、認め合ったりと交流できた。指導者と遊び、またやりたいとの声が多かった。

③ 施設職員は、笑顔がたくさん見られ楽しんでいたことを一番に評価していた。自分から主体的に活動し、満足感達成感を得ているととらえており、あれこれ悩むことはその後の生活につながっていくと期待できると感じている。何より、外からの訪問者とのふれあいは刺激や気分転換となり、特別な一日となったという。

④ 地域の遊びの専門家の指導者による、子ども達が楽しめるように工夫準備された質の高いアート体験や音楽遊びの交流は、子どもの思いを“待つ”姿勢と丸ごと受け止める対応が、やりたい思いを引き出し、楽しく最後までやりとげていたと、施設の職員に大いに評価された。自己肯定感や QOL 向上につながっていた。

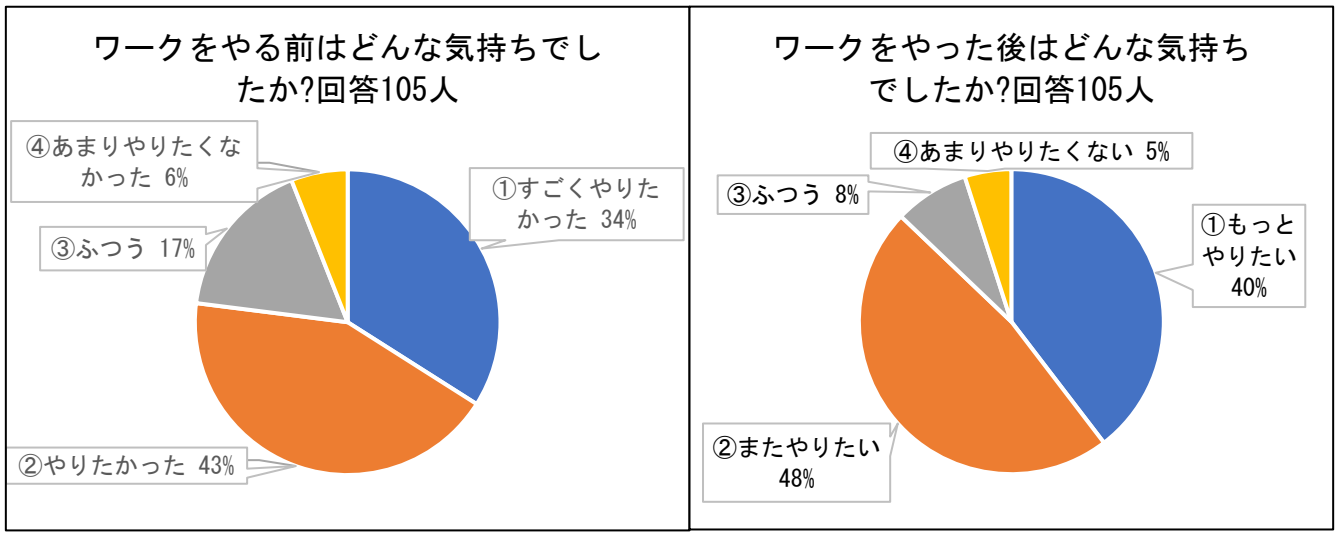
⑤ この事業でのコーディネーターの役割は重要である。施設の担当者と地域から発掘した指導者をつなぎ、丁寧な打ち合わせの元、子どもたちの年齢やニーズにあわせて指導者と一緒にプログラミングを考え、きめ細かな準備をした。当日は協力者やボランィアも参加し、子どもひとりひとりとコミュニケーションをとり、全体の安全にも配慮することで施設との信頼にもつながっている。

⑥ 課題

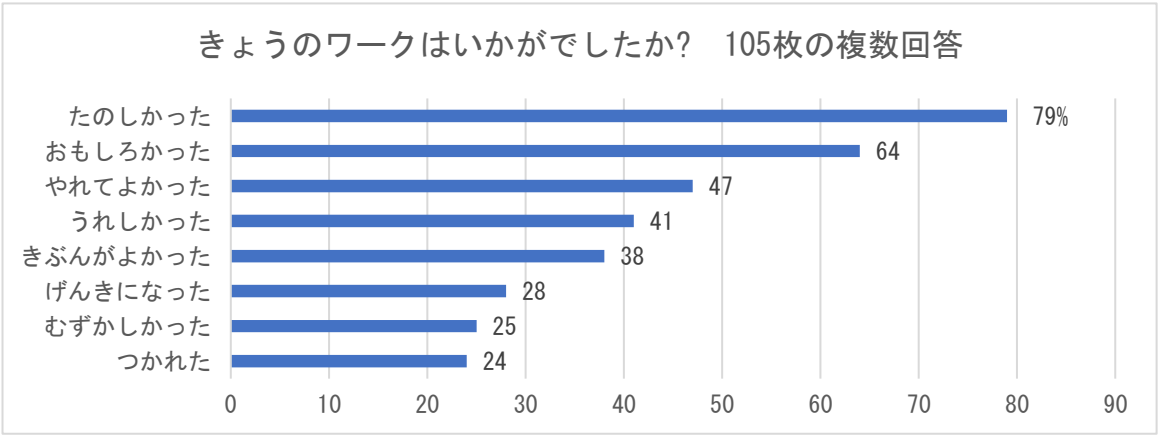
どんな状況にある子どもにも様々な人と出会いコミュニケーション力を養い、文化芸術を通して遊び、体験の機会を絶やさないこの事業は、定期的な継続が必要である。「こども大綱」のこどもの遊び体験活動・ウェルビーイングの重要性を実現するために行政や地域との連携や財政の応援が必要だと考える。

【コーディネーター】 市川淑江　宇野京子　越後久美子　大塚るい　大森智恵子　岡田泰子　恩田奈央子
買場都明　加藤香都代　笠原直子　桑原信子　菅井里恵　椎名好子　塩沢千秋
大山菜穂子　清水百世　白鳥みゆき　白幡緑　鈴木佳子　高橋知子　滝口淳子
棚田純子　中川香子　中村雪江　中村幸恵　早川良美　綿貫のばら　渡辺美佐緒

◆資料１　子どものアンケートから見えた子どもの気持ち



「すごくやりたかった」と「やりたかった」で 77%と 4 分の 3 以上の子どもがワクワクしてワークショップを楽しみに待っていることがわかる。何をやるのかどんな人が来るのか、ドキドキしている子どもたちも多くいて、「ふつう」「あまりやりたくない」という気持ちの子も 4 分の 1 くらいいた。
ワークショップをやったあとは、「もっとやりたい」が 40%で、「またやりたい 48%」と合わせると 88%の子どもが「やりたい」と答えている。プログラムによっては難しいなと思う子が「ふつう 8%」や「やりたくない 5%」と答えている子もいるが、みんな笑顔になって楽しんでいた。

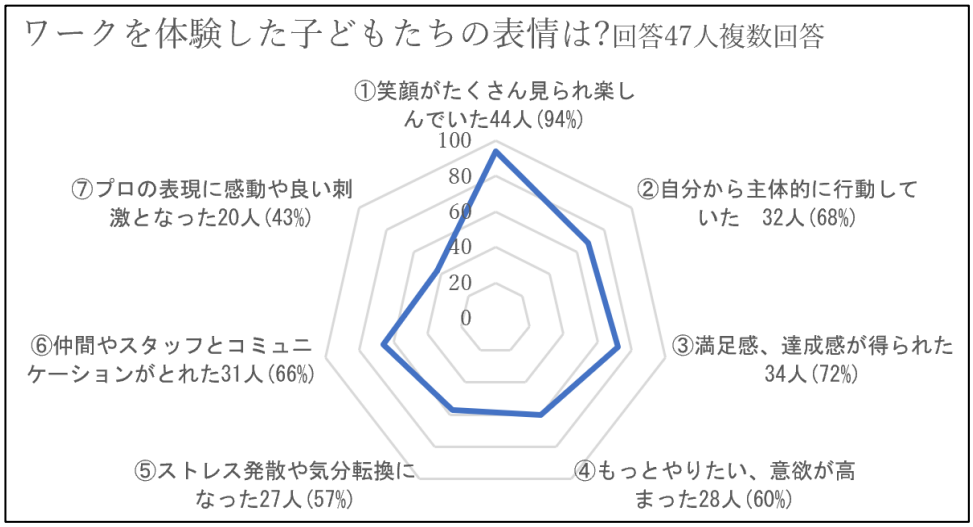


複数回答のアンケートで、「たのしかった 79%」「おもしろかった 64%」と両方やどちらかにほとんどの子どもが答えていて、楽しい時間を過ごしたといえる。次に「やれてよかった 47%」「うれしかった 41%」と、積極的に参加して満足感を感じている。「きぶんがよかった 38%」は例年より高く「げんきになった 28%」と合わせて情緒的な状態の向上が現れた。「むずかしかった　つかれた」と感じても指導者と共に最後まで取り組み「たのしかった　うれしかった」にもチェックもしていることから、QOL 向上につながったと言える。

■アンケートの自由記述から

・革細工はいつも触っている紙などと違ってすごく扱いにくかったけどできた時の達成感が最高でした。
・いろんなひとと、であえて１日１日がとってもたのしかった。
・友だちができてたのしかった！！
・丁寧に教えて下さり、とっても素敵な作品ができた。お部屋に帰って、ねるまで何度もクルクルやっていた。笑
・またやりたいと思った。検査の結果の後でおちこんでいたが、たのしい気持ちになれた。
・普段やることができない貴重な体験をすることができ、とても楽しかった。集中して自分がつくりたいのをつくることができた。
・とても楽しく、気分転換になった。
・作るのが楽しかったし、作れてうれしかったのもありました！とっても楽しかったです。

◆資料 2 施設関係者のアンケートから見えた自己肯定感を感じたところ（回答 47 人 複数回答）



「笑顔がたくさん見られ楽しんでいた」と 90%以上の方が回答し一番の評価としている。「満足感、達成感が得られた 72%」「自分から主体的に行動していた 68%」「仲間やスタッフとコミュニケーションがとれた 66%」「もっとやりたい、意欲が高まった 60%」と続く。芸術体験を通して、スタッフの声掛けや仲間との交流が主体的な行動を後押しし、満足感達成感、笑顔になることで QOL の向上や自己肯定感の向上につながっていると感じている。

■この事業の成果や子どもの自己肯定感や QOL 向上につながったと感じられましたか?それはどのようなことでしたか?

・子どもたちがつくりたいものを自ら選び　とても集中して取り組む姿がみられた。
・病棟へ戻っても　自分で作ったアクセサリーなど大切そうに装着しており、自分で作り上げたことによる達成感が満足感につながっているのではないかと感じた。
・生演奏ならではの迫力が感じられ、利用者さんが全身を通して音楽を体験している姿に新たな発見をすることができた。また、楽器に触れる体験や耳元で聞く音に刺激を受けることができ、外部の方との交流の場に新鮮さが感じられ、気分転換を図ることができたと思う。
・日常では味わえない、楽器による空気の振動を介した音の経験を通して、利用者の QOL の向上につながったと考える。
・完成した作品を見せに来てくれて「素敵だね」とほめると笑顔を見せてくれたので、満足感や達成感を得て自己肯定感の向上につながったと感じた。
・子ども達の「やりたい」「楽しい」が前向きな行動や表情に表れていたように感じた。革を選ぶところから目を輝かせて手で触ってみて自分で選べてﾆｺﾆｺしていた。自分で切って貼って考えて出来上がった時はやりがいと喜びが伝わってきた。QOL の向上につながったと感じた。
・子どもが「今日はおまつりみたいに特別な日だね」とうれしそうに参加していた。目をキラキラさせて、自分の作った缶バッジやフェルトのキーホルダー、革のかばんやリボン等を見せに来て「こんなの作ったよ」と自信たっぷりだったこと。

■芸術やあそびの専門性のある指導者の力、ここはプロだなと感じたところがありましたか?

・今回患者が楽器に触れて音を鳴らす時間があり、普段なかなかない機会なので患者さんたちにとってとても良い経験ができたのではないかと思う。演奏だけではなく周りが盛り上げるような声がけや関わりをしていて勉強になった。
・子どもがどうしたら楽しめるのかを考え対応してくださっていた。
・興味が持続せず自由きままに遊び始めてしまう子もいましたが、子ども達に寄り添う声掛けをしたいただきありがたかった。
・こどものアイデアを上手に引き出す声かけをしてくださり、こども自身も自分の作品に驚き喜んでいた。

■実施後感じられた、本事業へのご意見、今後のご要望、改善点などをお聞かせください。

・指導者たちとのコミュニケーションも子ども達はワクワクするし刺激的な経験だったと思う。
・良い気分転換になったようで、終わった表情が笑顔で満足感を感じられた。「楽しかった」「ありがとう」という声も沢山いただき、とても良い時間を過ごすことができた。

「こども基本法」「こども大綱」は、子ども・子育て施策の大転換

～子どもにとっていちばんよいことを行う～

「こども家庭庁」の設立、子どもの権利条約の理念が書き込まれた「こども基本法」が施行され、「こども基本法」に基づき、子ども施策を総合的に推進する方針等を定めた「こども大綱」が閣議決定されました。
「こども大綱」には「こどもまんなか社会」が謳われており、「切れ目なく、ウェルビーイングの向上を図ることが重要である。」と書かれています。「こども基本法」「こども大綱」は大人社会（親・家庭・学校・地域・行政）の意識を変え、あまねく子どもに関して「拠って立つ」柱です。今後 5 年程度を目途に、県や市町村等自治体でも「こども計画」を策定し、より具体的な施策を計画し推進することになっています。

「こども大綱」が目指す「こどもまんなか社会」とは

～すべてのこども・若者が、身身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができる社会～

＜こども基本法＞（一部抜粋）
こども基本法は、日本国憲法、児童の権利に関する条約（以下「こどもの権利条約1」という。）精神にのっとり、次代の社会を担う全てのこどもが、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、その権利の擁護が図られ、将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指す。

＜こども大綱＞（一部抜粋）
全てのこども・若者が、日本国憲法、こども基本法及びこどもの権利条約の精神にのっとり、生涯にわたる人格形成の基礎を築き、自立した個人としてひとしく健やかに成長することができ、心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、　ひとしくその権利の擁護が図られ、身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸せな状態　（ウェルビーイング）で生活を送ることができる社会。

◆◆ライフステージを通した重要事項◆◆

(1) こども・若者が権利の主体であることの社会全体での共有等
(2) 多様な遊びや体験、活躍できる機会づくり　（遊びや体験活動の推進、生活習慣の形成・定着）
遊びや体験活動は、こども・若者の健やかな成長の原点である。
例えば、こどもが遊びに没頭し、身体の諸感覚を使い、自らの遊びを充実、発展させていくことは、言語や数量等の感覚などの認知的スキルや、創造力や好奇心、自尊心、想像力や思いやり、やり抜く力、折り合いをつける力などの社会情動的スキルの双方を育むことに加え、多様な動きを身に付け、健康を維持することにつながり、ひいては、生涯にわたる幸せにつながる。

こういった遊びや体験活動の重要性、学びへのつながりや、その機会を保障することの重要性を改めて認識した上で、国や地方公共団体、地域、学校、家庭、若者、民間団体、民間企業等が連携・協働してこども・若者の全てのライフステージにおいて、年齢や発達の程度に応じて、自然体験、職業体験、文化芸術体験など多様な体験・外遊びを含む様々な遊びができるよう、青少年教育施設の充実を含め、地域資源も生かした遊びや体験の機会や場を意図的・計画的に創出する。地域や成育環境によって体験活動の機会に格差が生じないよう配慮する。

◇◇ライフステージ別の重要事項◇◇

（こどもの誕生前から幼児期まで）

こどもの誕生前から幼児期までは、こどもの将来にわたるウェルビーイングの基礎を培い、人生の確かなスタートを切るための最も重要な時期であるとともに、この時期への社会的投資が次代の社会の在り方を大きく左右するため、社会全体にとっても極めて重要な時期である。
また、乳幼児は多くの時間を家庭や地域の中で過ごし、幼稚園・保育所・認定こども園への就園状況も異なるなど、育ちの環境は多様である。その多様性を尊重しつつ、保護者・養育者の「子育て」を支えることだけでなく、「こどもの育ち」に係る質にも社会がしっかりと目を向け、保護者・養育者の就労・養育状況を含むこどもの置かれた環境等に十分に配慮しつつ、ひとしく、切れ目なく、ウェルビーイングの向上を図ることが重要である。

乳児期におけるしっかりとした愛着形成を基礎とした情緒の安定や他者への信頼感の醸成、幼児期における他者との関わりや基本的な生きる力の獲得を通じて、一人一人のこどもが、かけがえのない個性ある存在として認められ、自己肯定感をもって成長することができるようにしなければならない。

令和７年度子どもゆめ基金
「病院や児童福祉施設の子どもが主体的に創造しワクワクする
QOL 向上あそび交流 2025」
報告書

発行日 ： 2026 年　3 月 1 日
発行者 ：特定非営利活動法人　子ども劇場千葉県センター
発行所 ：特定非営利活動法人　子ども劇場千葉県センター
〒260-0031 千葉市中央区新千葉 2-17-6 サンコート新千葉 102 号
TEL：043-301-7262　FAX：043-301-7263
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ：kidchiba@lily.ocn.ne.jp

National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」

体験の風をおこそう

令和７年度子どもゆめ基金助成事業報告書